

令和4年度学校評価の結果と改善策について

1 自己評価の結果

評価規準 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

(1) 各部の自己評価

① 知的障害教育部門 小学部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果(○)と課題(▲)
①児童の人権や内面を尊重した関わりを行うとともに、児童が安心・安全に学べる学習環境の整備に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童との共感的な関わりに努め、一人一人の児童の障害特性や発達段階、教育的ニーズに細やかに対応する。 ・自閉症指導スタンダードの活用や学習環境チェックリストによるチェックを確実にし、教室環境等の改善に取り組む。 ・ヒヤリハット事例を学部全体で共有し、事故の未然防止に努める。 	2	<p>○それぞれが自閉症指導スタンダードや学習環境チェックリストなどを活用して児童の障害特性などに合わせた対応や教室環境等の改善に努めた。</p> <p>▲ヒヤリハット事例は毎回、部全体で共有してきたが、病院に行くようなけが(足や頭部の打撲、手の骨折)、児童の所在不明、ガラスを割る事例などが数件起こった。担当の教員が入ったときや人手不足で見守りの人数が足りていないときに起こったものであった。</p>
学校努力目標(1) - ①②			
②育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた目標の設定や「主体的・対話的で深い学び」に視点を置いた授業づくり・評価を行い、授業改善につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」についてのチェック表を活用し、授業計画に役立てる。 ・単元別指導計画表(国・算・体)を活用した公開授業や初任研、経年経過研の研究授業等を通して、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた目標の設定や「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業実践を行い、授業の評価・検証を行う。 ・タブレット端末のアプリを授業の中に取り入れ、学習への意欲付けや反復練習などに活用する。 ・学期ごとに、「主体的・対話的で深い学び」についての反省を各学年から挙げてもらい、工夫している取組について紹介し、共通理解を図る。 	3	<p>○経年経過研修(5年目研まで)では、研究授業の授業計画に「主体的・対話的で深い学び」についてのチェック表を活用したり、指導案の中にそれらに向けた手立てを記入し、実践・評価を行ったりした。校内研究で取り組んだグループ研究等でも、単元別指導計画表を活用した授業計画・実践・評価を行った。2学期の反省では、「主体的・対話的な学び」を意識した取組や学年、グループ内で授業のPDCAに関する意見交換、反省等しながら授業改善に取り組んでいる報告が挙げられた。</p> <p>▲慢性的な人手不足により「とにかく安全に1日1日の授業を行うことで精一杯な状況」「子供たちに丁寧な指導が十分できていない」学年もあった。(学校評価)</p>
学校努力目標(2) - ①④⑤			
③キャリア教育の視点から教育活動全般を見直し、キャリア教育の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育全体計画を全職員で見合い、目標や内容の再確認を行う。 ・キャリアパスポートを活用した特別活動の授業実践を行う。 ・学期ごとに、各学年が取り組んだキャリア教育に関する実践例を挙げてもらい、工夫している取組について紹介し、共通理解を図る。 	3	<p>○係活動や教師の手伝いに日頃から取り組ませたり、授業の中で「仕事」や「働くこと」「働く人」について学習を深めたりするなど、学年ごとにキャリア教育を意識した実践に努めた。</p> <p>▲キャリアパスポートを活用した特別活動の授業実践にそれぞれが工夫しながら取り組んだが、現行の様式が児童の実態に合っていないとの意見が多く出たので次年度以降検討したい。</p>
学校努力目標(2) - ⑦⑧			
④交流及び共同学習(学校間交流、居住地校交流など)の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・中里小、相浦小との学校間交流、居住地校との交流、わかす小学部、北松分校小学部との交流を行う。 ・直接的な交流だけでなく、間接的な交流(手紙やビデオレターなどでのやり取り、リモート交流)に積極的に取り組む。 	3	<p>○居住地校交流では、約30名の児童が、1～2回直接交流をすることができた。直接交流だけではなく、手紙やリモートでの間接交流も充実していた。</p> <p>▲人手不足から、直接交流に行った教員の代教が入れない状態になり、校内に残った子供たちの安全管理や学習保障の問題などがあった。実施回数や実施方法について検討していきたい。</p>
学校努力目標(3) - ②③			

自己評価の数値が「2」以下の項目について

努力目標の番号	次年度に向けた改善策
①	<ul style="list-style-type: none"> ・人事面で、人手不足の解消をお願いしたい。 ・担任と担当の児童の実態の情報共有(⇒危険予測) ・担当の見守りの強化 ・危険箇所の情報共有と危険箇所には立ち番を設ける。 ・目が行き届かない状況では、各教室の内鍵を掛ける、各プレイルームの入口の扉を確実に閉めるなどを徹底する。

② 肢体不自由教育部門 小学部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
①新型コロナウイルス感染症に対して十分に配慮を行い、安心安全な教育活動を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策とし、3蜜を心掛けるとともに、手洗い手指消毒の徹底やマスク、フェイスシールドの着用など感染防止の配慮を行いながら、学級単位での学習の充実に努める。 ・校外学習や教育活動全般を通して、県内及び市町の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、学習内容や計画を十分吟味し、安心安全な教育活動を実施する。 	3	<p>○各学級、基本的な感染症対策（消毒、教材の共有はしない、児童間の距離を保つ、換気、マスクやフェイスシールドの着用など）を徹底することができた。</p> <p>○校外学習についても、現地の感染症対策や当日の団体客を把握し計画を進めることができた。</p> <p>▲感染レベル1のときは、感染症対策を行えば部門間の共同学習も実施できるが、今年度実施できていない。次年度、感染状況を見ながら実施できるよう計画していきたい。</p>
学校努力目標 (1) —④			
②育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた目標の設定や「主体的・対話的で深い学び」に視点を置いた授業づくり・評価を行い、授業改善につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画や単元別指導計画表を基に、教師間で児童の目標や指導内容、手立て、評価等を共有したり、児童の表出を待つ場面や声掛けの方法、T.T.の役割など指導の工夫を確認したりすることで指導の一貫性を図る。 ・ICT 機器の利活用を積極的に行い、学習の中で障害特性や実態に応じた活用方法についての教員の指導力向上を目指す。 	3	<p>○公開授業や研究授業及び授業研究会を通して、声の掛け方、援助の仕方、教材の提示の仕方などを教師間で学び合い授業づくりを行うことで各教科等の指導について部全体で考え、授業改善に生かしていくことができた。</p> <p>○各単元で単元別指導計画表を作成し、三つの柱に沿って指導を行うことができた。評価についても担任間で共有できた。</p>
学校努力目標 (2) —⑤			
③生涯学習や生涯スポーツなどのきっかけとなる授業づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・余暇活動や将来の社会参加を見据え、必要となる知識や技能を習得させることを目的とした授業を計画する（例：体育のボール運動の授業にポッチャやハンドサッカーなどを取り入れる、パソコンに関する授業、プログラミング教育など）。 	3	<p>○運動会のダンスを朝の歌に取り入れたことで昼休みにダンスを楽しむ児童も増えたり体育で卓球バレーに取り組み、一生懸命スポーツに取り組む面白さを体感したりすることができた。</p>
学校努力目標 (2) —8			
④小学部の学習活動を積極的に発信したり、協働した学習活動を取り入れることで、地域の人々や環境とつながることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを通して、学習活動や学部の様子を定期的に発信する。 ・学校間交流や居住地校交流において、直接的な交流だけでなく、間接的な交流（手紙やビデオレターのやり取り、リモート交流等）を積極的に行う。 	3	<p>○居住地校における交流及び共同学習において、今年度、少しずつ直接交流ができ、互いに触れ合い学び合う学習ができて良かった。また、間接交流についてもリモート交流等、それぞれ相手校と打合せをしながら進めることができて良かった。今後も感染状況を把握しながら進めていきたい。</p>
学校努力目標 (3) —③、④			

③ 知的障害教育部門 中学部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
<p>①生徒の人権や内面を尊重した指導・支援を行うとともに、安全・安心な教育活動を実践する。</p> <p>学校努力目標 (1) —①</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の不安や悩みに目を向け、生徒の内面に対する共感的理解をもって生徒理解を深める。 好ましい人間関係を基礎に、豊かな集団生活が営まれる学級や学部の教育環境を形成する。 ヒヤリ・ハットを共有し、組織として事故防止に取り組む。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に応じた個別対応を行ったことで、落ち着いて生活できる生徒が増えた。 ○学校生活や友達関係など、集団の場で必要な指導・支援を行ったことで、学級・学年のまとまりが強くなった。 ○小さなけがでも、原因と防止対策を職員間で共有することで、けが等による保健室利用が大幅に減った。
<p>②「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行い、各教科等の系統的な指導内容の整理、評価について研究を深める。</p> <p>学校努力目標 (2) —⑤⑥</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人一授業や授業研究会を通して、「主体的・対話的で、深い学び」を視点にした授業改善を行う。 授業連絡会、教科等部会等を通して、単元、授業レベルの計画、評価、改善を徹底する。 個別の指導計画に基づいて行われた学習状況や結果を適切に評価し、指導目標や指導内容、指導方法の改善に努める。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が学習課題に気付き、問題解決の見通しをもって問題解決に取り組む学習が見られるようになってきた。 ○生活単元学習の単元別指導計画を作成したことで、指導目標や内容及び評価の観点を明確にした授業が行えるようになった。 ▲個別の指導計画の評価が、指導目標や指導内容、指導方法の改善に至っていないことが多かった。
<p>③地域の環境や人々とつながる活動を積極的に授業に取り入れるとともに、教育活動の外部への情報発信を行う。</p> <p>学校努力目標 (3) —③④</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画を活用し、家庭・保護者との共通理解を図りながらキャリア教育を進める。 学級・学年通信やホームページを通して、保護者や本校の教育活動に関心がある方への情報発信を積極的に行う。 豊かな体験活動の充実を図り、学習や生活の場で幅広く活用できる力を育む。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○3年生は12月の個別面談で、卒業後の生活について保護者や本人と共有できた。 ○▲ホームページは、計画どおり更新することができた。ホームページを周知していきたい。 ○新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、様々な工夫をしながら現場実習や校外学習など地域や人々とつながる学習ができた。

④ 肢体不自由教育部門 中学部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
①新型コロナウイルス感染症対策を徹底するとともに、生徒の心情の変化に寄り添った指導を行い、安全・安心な教育活動を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策の条件を日々の授業計画の中に盛り込み、教員配置や生徒の座席配置などの工夫を行うとともに、その状況を振り返り対策を繰り返す。 中学部全生徒に対して、中学部全職員で指導に当たることを前提とし、学級担任を中心に生徒の障害の状態や特性を丁寧に把握し、生徒一人一人の気持ちの変化などを見逃さないようにする。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症対策を引き続き徹底することで、<u>2学期に大きく体調を崩す生徒や教師はおらず、運動会や修学旅行など大きな行事を全員参加で実施できた。</u> ○安全面においては、1学期の反省から共通の手立て（トイレや水分補給の計画表、食事介助のローテーション）を講じたことで全職員が生徒に関わるができるようになり、安全かつ効率的に指導ができるようになった。 ▲装具の付け方や立位の際の注意点などの確認が十分ではないところがあった。 ○生徒の気持ちの表出を大切にして教師が関わることで、自信のないときや納得のいかないときでも、黙り込むことが減りつつある。 ○喉が渴いたときや排せつするときなどに、遠くにいる教師にも伝わるくらい<u>の声を出して要求を伝える生徒が増え、確率も高くなってきた。</u>
学校努力目標 (1) —①④			
②校内研究を通して、評価規準を整理しながら評価を繰り返し、授業改善につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程と教える指導内容、評価規準の設定を連動させて授業計画を行う。その際、単元別指導計画表を活用した評価の蓄積から個別の指導計画の評価を説明できるようにする。 ・授業の結果、生徒たちが主体的に生き生きと学習に取り組んでいたか、付けさせたい力が付いたのか、の視点で授業を振り返り、次の授業につなげる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○単元別指導計画の活用に向けて、夏季休業中に自分たちのつまずきや課題を整理し、2学期に学部共通で取り組んでみることを共有した。単元別指導計画の作成が進み、授業計画から評価までを少し意識できるようになってきた。 ▲単元ごとの計画を負担に感じる教師もいる。 ○全ての教師が、授業の始めに毎回めあてを提示することで、<u>T.T.の役割が明確になり、目標に対する生徒の変容が分かりやすくなった。</u> ▲T.T.の役割分担を含め、授業計画のための話合いの時間を確保することが難しかった。(現在、月1グループ会を設定) ○定期考査の計画や振り返りを行う中で、自分の課題に自分で気づくことができつつあり、主体的に学習に取り組むことが増えた。頑張った教科は成果が定期考査の結果に表れたことで、<u>生徒自身が次の目標をもつことができるようになってきた。</u> ○学習時に必要な姿勢などを外部専門家の先生にアドバイスしていただき、それを日頃の学習に生かすことで、<u>生徒自身が学習に集中できるようになってきた。</u>
学校努力目標 (2) —①			
③生涯学習や生涯スポーツなどの体験を通して、挑戦する気持ちをもったり、自分の得意なことを見付けたりできる生徒の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、生徒一人一人が自分に合った学び方を選びながら様々な学習に取り組む場面を設定し、その中から自分の好きなものや継続してやってみたいものを見付けていけるようにする。 ・自分の得意なことや苦手なことを教師と一緒に考え、少し頑張ればできる目標を決めて挑戦してみようとする気持ちを育てる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスポートによる振り返りや、自立活動、学級指導などの中で、自分で課題に気付くことで苦手なことやその対処法について受け入れることができるようになってきた。また、解決するために自分で学習内容を組み立てて取り組もうとする姿勢が身に付きつつある。 ○社会体験学習や運動会、生徒会役員選挙などを通して、いろいろな気持ちの経験をした生徒が多かった。<u>自分の苦手なことを受け入れることで、自分の良さに気付くことができつつある。</u> ※これを得意なことにつなげていきたい。 ○一人一人に応じて姿勢を整えたり、繰り返しの学習を定着させたりすることで、<u>苦手な学習にも挑戦しようとするようになってきた。</u> ○一人一台のタブレット PC を生徒の実態に応じて効果的に活用できるようになってきた。選択したり意思表示をしたりして、教師に発信する生徒が増えてきた。
学校努力目標 (2) —⑧			
④中学部の学習活動を積極的に発信したり、協働した学習活動を取り入れたりすることで、地域の人々や環境とつながることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒発信の動画配信を効果的に活用し、自分達の学習の取組や頑張りを保護者に積極的に伝える経験を通して、理解をしてもらったり感想をもらったりする喜びを感じ取ることで自信をつけさせる。 ・授業で制作している作品や学習の成果を、ホームページを使って広く地域に発信したり、玄関先で販売したりして学校以外の人とのつながりをもつ。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期は、居住地校交流を実施した。<u>生徒自身が日頃の学習の成果を他校の生徒に発信するいい機会となり、昼休みなどの関わりでは、お互いを理解し合える時間がもてた。</u> ○国語科の授業で本校高等部、諫早特支、鎮西大学、本校の4校合同で「ビブリオ」に取り組んだ。<u>日ごろの学習の成果を発表し評価し合ういい機会となった。</u> ○生徒発信の動画は、<u>生徒が企画して保護者にアンケートをとって見た。</u> ※それを元に、今後の発信の方法については生徒たちに考えさせる。 ○一人一台タブレットの持ち帰りを整備したことで、家庭とのやり取りがより具体的になった。学校での学習の様子（成果や、うまくいかなかったことも含め）を細かく伝えやすくなり、リハビリの様子も動画で見せてもらうことで学校での指導につなげることもできた。 ○委員会活動の中で、保健室や事務室の先生たちに依頼をしたり、役割を果たしたりすることで、学部以外の人の関わりが広がり、「ありがとう」や「お願いします」などの気持ちを共有することができた。
学校努力目標 (3) —③			

⑤ 知的障害教育部門 高等部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
<p>①生徒の人権や内面を尊重した指導・支援を行い、生徒の自他を尊重し周りの人との協調・協力する態度を育成する。</p> <p>学校努力目標 (1) —①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人一人が人権に対する意識を高め、生徒の気持ちや意思を丁寧に聞いたり言動を観察したりして生徒理解に努める。 ・「ありがとうの7日間」や「道徳の日」などを中心に生徒会活動や学級活動などで人権を意識できるような取り組みをする。 ・行事や学習活動の中で、協力して取り組む機会を設定したり、生徒会が主体となって実施したりする活動を取り入れる。 	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月のありがとうの7日間運動に取り組んだり、学級会で友達に感謝を伝える活動をしたことで、お互いに声を掛け合ったり、協力して活動したりする姿が増えた。 ○生活コースと総合コースが同じクラスで様々な活動に取り組んだことで、生徒同士の関わりや学び合いが増え、行事等で助け合うことができるようになってきた。 ○体育祭や平和学習、文化祭や生徒会役員選挙など、生徒会や3年生が中心となって昼休みを使うなどして積極的に活動し、充実感や達成感を味わうことができた。 ▲SNSでのトラブルや、ルールを守れないケースで生徒指導が必要なことがあったので、スマホの利用などについての指導を今後も継続工夫していく必要がある。
<p>②進路実現に向けてコース制を実施しながら、自己理解と自己選択・決定する力を育成する教育内容や進路指導の充実を図る。</p> <p>学校努力目標 (2) —⑦ 学校努力目標 (2) —⑧</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や学習活動の中で時間を十分確保し、目標設定や振り返りで自己評価を丁寧にできるようにする。 ・学習活動の中に様々な形態（一人で、ペアで、みんななどで）で考えたり選択したりする場面を設定する。 ・生徒へは職業の学習や実習報告会を通して、保護者へは実習報告会や企業や福祉事業所についての情報提供を積極的に行うことで進路の選択肢を広げる。 	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○実習の目標設定では前回の実習の反省や課題を踏まえて、目標を設定することができた。実習での課題を作業学習の目標などにもつなげることで、実習後も課題を意識して活動に取り組むことができている生徒が多くなってきている。 ○目標だけでなく、目標達成のための方法についても考えることで、生徒たちの目標達成に向けた取組につながってきている。 ○コロナ禍にあり、ペアやみんなで考えたりする場面設定が難しいこともあったが、可能な範囲で取り組ませたことで、自分の意見を出したり、友達の意見を受け入れたりする姿が見られるようになってきている。 ▲保護者への積極的な情報提供については、個別に情報提供はしているが、全体への提供については不十分な面があった。
<p>③地域とつながる活動を積極的に授業に取り入れ、生徒の社会性の成長発達や自己有用感の育成を目指す。</p> <p>学校努力目標 (3) —③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページを活用して、高等部の特色的な学習活動を中心に情報発信していく。 ・感染症対策を十分行いながら、外部から講師を招いたり地域貢献できる活動を取り入れたりする。 ・作業学習（校内実習を含む）で、地域の企業や事業所を連携した委託作業などを取り入れる。 	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○産婦人科医の先生や選挙管理委員会の方、学校薬剤師など外部講師を招いて学習の機会を設けることで、生徒は話をよく聞いて問題に答えたり、質問をしたりするなど主体的な学びが見られた。 ○生活コースの作業学習では、地域の教会で、自分たちにできる清掃活動を行い、人の役に立つ経験を積むことができた。 ○現場実習で、地域の企業等の協力を得て実習に取り組み、働く大変さや、働く力、やりがいを感じることができた。 ○イベントに出演依頼があり生徒の活躍の場ができてよかった。TV取材なども含めて学校のPRにもつながったのではないかな。 ▲ホームページについては、あまり周知されていないと思われるため、今後周知を図っていく。

⑥ 肢体不自由教育部門 高等部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
①生徒の「主体的・対話的で深い学び」を促す授業づくりに努め、新学習指導要領を踏まえた教育課程を編成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における生徒の表出(発言、表情等の変化など)を引き出すための教材教具の工夫や関わり方(発言や表出を待つ姿勢など)の改善を行い、教員間で積極的に意見交換を行う。 ・生徒自身が「選択する」「決定する」場面を意図的に設け、生徒主体で授業が展開するようにする。 ・個別の指導計画や単元別指導計画表、校外学習届等を育成を目指す資質・能力の三つの柱(知技/思判表/学人)を意識して作成し、授業の中で、実践する。 ・単元別指導計画表の活用を進め、単元開始前の事前打合せや単元後の評価等の話し合いを活性化させる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○学部会をはじめ、自立活動を中心とした目標設定会議等を活用して、各生徒の課題や指導の方向性を担当者間で共有している。 ○新学習指導要領に沿った教育課程の編成、生徒の学習段階に合った教科書採択ができています。 ○各授業及び校外学習(修学旅行等)においては、育成を目指す資質・能力の三つの柱で目標設定と指導、評価ができています。 ▲ティームティーチングの指導体制をとる授業において、指導計画を主に担当に委ねることが多く、担当者間で協議する機会が十分設定できていない。
学校努力目標 (2) —①			
②生徒一人一人に応じた授業づくりを行いながら、進路実現に向けた教育内容の選択と進路指導の充実に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒の学習到達度や実態に合わせて、履修する科目や単位数を調整している。 ・卒業後の生活や進路を想定して、生徒自身のもてる力を異なる状況でも発揮できるよう、場の設定を工夫したり、生徒自身が必要な支援を依頼したりすることができるような指導を行う。 ・卒業後の社会生活を念頭に置きながら、進路指導に係わる情報を本人及び保護者に随時提供する。 ・社会体験学習の実施においては、生徒自身が卒業後の生活を実感できるような工夫を行い、3年間の社会体験学習の積み重ねを重視する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○Ⅰ、Ⅱ課程(高等学校に準ずる)の生徒は、入学時から数学の到達度に課題があった。数学Ⅰを増単位することにより、教科の目標を達成する段階まで到達できた。 ○学校生活の様々な機会に生徒が周囲に依頼する場面を設けて指導を行っている。 ○社会体験実習前には、保護者の意向を取り入れて実習先の検討を行っている。そのため、家庭の協力も向上し、生徒の実習に対する意識の向上につながっている。 ▲生徒の実態から卒業後の進路先は福祉事業所が中心となっている。特にⅠ、Ⅱ課程で学習する生徒の進路先については、一般就労や職業訓練校等を視野に入れ指導していく必要がある。
学校努力目標 (2) —⑦			
③生涯学習や生涯スポーツなどの学びにつながる授業づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先での活動を体験的に学べる場を設定し、生徒自身の余暇活動への興味関心を高めたり、広げたりできるようにする。 ・教育活動全体を通して、音楽やスポーツ活動を充実させ、卒業後の生活につながる余暇活動を意識した指導内容の精選を図る。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者スポーツ大会や特別支援学校ボッチャ大会など、校外の活動に積極的に参加する生徒が増えた。 ○授業を通して、様々な運動競技や音楽など、生徒の興味関心に合わせた内容を扱っている。
学校努力目標 (2) —⑧			

⑦ 高等部上五島分教室

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
①社会で活躍するために必要な知識・態度・体力の定着を図り、授業の工夫・改善に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ P D C A サイクルの授業改善に取り組み、単元別指導計画表を充実させる。 ・ 個別学習を中心にした教授方法を試行し、個に応じた学力の向上を目指す。同時に自宅での授業方法を検討する。 ・ 翌週の授業内容を保護者に事前に伝えたり、学級通信を発行したりすることで、家庭内での会話を促進させる。それにともない、連絡帳記入の負担を軽減したい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○単元別指導計画の改善は進んでいる。 ○一斉授業の指導形態だけでなく、タブレット PC を用いた個別学習にも取り組んだことで、生徒の意欲が高まった。 ▲自宅とのリモート授業を実施することはできなかった。 ▲連絡帳の記入については、途中で簡略化することは難しいので、合格者説明会の際に理解を促したい。
学校努力目標 (2) —①			
②自己選択・自己決定する力を高めながら進路実現を図り、自立する力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳や学級活動、自立活動の授業で、話し合い活動を多く設定する。 ・ 学級やグループで楽しむ活動を、生徒だけで企画運営させることに複数回取り組ませる。 ・ 現場実習の日数や事前事後学習の方法を改善する。 ・ 進路指導部と各学級担任が協力し、企業や福祉施事業所の情報収集や保護者への情報提供を行う。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○授業や学級活動で話し合いの時間を確保し、教師は見守る姿勢で待つことで、生徒自身が考えるようになり、議論が活性化した。 ○卒業生 2 人は希望の進路先に進むことができた。 ▲現場実習改善の検討をしている。働く力の定義に時間を要したために決定には至っていない。
学校努力目標 (2) —⑤			
③自分も他者も大切にすることを育て、上五島地区の発展に寄与するための教育実践に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等において、道徳教育や人権教育の内容を意識して指導にあたり、生徒の道徳観や人権に対する意識を高める。 ・ 町教委や役場福祉課との連携を深め、共同で訪問・見学・支援することを増やす。 ・ 分教室の教育や障害のある人への理解を促すために、分教室通信の発行や学校公開、中学校での学校紹介、職場開拓などに取り組み、特別支援学校、特別支援教育について説明することで啓発活動を行う。 ・ 地域の美化活動（地域清掃、花壇の整備）や寄付目的のバザーに取り組み、生徒の地域貢献への意識を高める。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の授業を中心に人権意識を高めることができた。 ○コーディネーター連絡協議会事務局を町教委に変更する方向で進んでいる。 ▲コロナ禍で、関係機関と共同で行うことが難しかった。 ○分教室の実践を地域に発信することで、理解を促進することができた。 ○地域の美化活動では、7 回の地域清掃と道路沿いの花壇の整備、バス停への花の設置に取り組んだことで、生徒の地域貢献の意識を高めることができた。 ○地域の花壇の花植えは、地区の老人会と合同で実施したことで、地域との連携が深まった。 ○寄付バザーは、3/9 に実施予定。
学校努力目標 (3) —③			

(2) 各分掌部の自己評価

① 教務部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
<p>①校務事務支援システムの本運用に向けて、個別の指導計画の効果的な活用の在り方について検討を進め、単元別指導計画表との関連をより意識したカリキュラム・マネジメントを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に、本校の個別の指導計画・PDCA サイクルについて全職員向けに研修会を実施する。 ・単元別指導計画表については、将来的には全教科で作成していくことなどを各部会にて周知することで、ゴールをしっかりと示す。(研究部との連携) ・単元別指導計画を使つての授業後に実施時数の確認をすることで次年度の教育課程の編成に生かすようにする。 	3	<p>○システムについては、他の分掌部と連携したり、部門ごとに研修会等を行ったりしながら、個別の指導計画の評価について職員へ周知・共通理解をすることができた。</p> <p>○単元ごとに単元別指導計画を作成し、その反省から教育課程を作成することができた。</p> <p>▲個別の指導計画と単元別指導計画表との関連については、今後も内容の理解を深めていく必要がある。</p>
<p>学校努力目標 (2) —①</p>			
<p>②各教科等部会の活性化を図り、小・中・高の各教科等の体系的な指導内容の整理、評価について研究を深める。知的障害教育部門高等部 (本校) において、自立活動の時間における指導の位置付け、時間割設定を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、知肢合同での教科等部会の回数を全7回計画する。昨年からの各部の課題や教科ごとの課題について教科等部会で検討し、学部間や部門間のつながりを確認することで、教育課程や年間指導計画の編成作業に生かす。 ・自立活動については、知的障害教育部門において、各部に応じて適正な時間数や時間割を検討する。 	3	<p>○学部間での縦のつながり、教科部会内での縦のつながりを意識して、指導内容や取組の内容を共通理解することができた。</p> <p>○学部内で自立活動の適正時間に関するアンケートを実施したり、検討したりすることで教育課程の編成につなげることができた。</p> <p>▲教科等部会については、今後更に学部間でどのように協働して、取り組んでいくかを検討していく必要がある。</p>
<p>学校努力目標 (2) —③ (2) —⑥</p>			

② 研究部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
<p>①「育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた各教科における指導内容と学習評価の検討」を目指し、個別の指導計画の学習評価をより良い教育課程編成につなげる取組を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各部で研究授業を行い、単元別指導計画表と個別の指導計画表をどのようにつなげるか、協議を行う。 ・単元別指導計画表の作成を引き続き行い、単元別指導計画表を作成する意義について理解する。 ・個別の指導計画の作成方法について研究会などで確認し、指導と評価の一体化を図る。 	3	<p>○マニュアルを基に、評価シートをどのように使用するか確認し、協議を行うことで単元別指導計画表と個別の指導計画表をどのようにつなげ、評価に結び付けるか研究することができた。</p> <p>○各部で新たに単元別指導計画表を作成することで、個別の指導計画や教育課程編成に生かすことができた。</p> <p>▲各部で単元別指導計画表を活用し、見直すまでの過程をP D C Aサイクルの好循環を行うことで、作成する意義を理解してもらう。</p>
<p>学校努力目標 (2) -①</p>			
<p>②研修案内、公開授業や他部・他部門研修を行い、教職員の自主的な研修を行うことを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業を行い、教職員の授業の質の向上や授業改善への意識を高める。 ・他部、他部門研修を行い、児童・生徒理解を深める。 ・長肢研、九肢研、長特研、九特連の業務を行い、研修に参加する。 	3	<p>○公開授業、他部他部門研修を行うことで、教職員の児童生徒理解や授業改善などに生かすことができた。</p> <p>○長特研、長肢研についてはオンラインでの参加となったが、事務局と連絡調整し、研究部内で準備を進めることで、学びを深めることができた。</p> <p>▲公開授業では主になる教師の負担が大きく、グループ内で協議する時間の確保が難しかった。</p>
<p>学校努力目標 (2) -⑤</p>			

③ 生活生徒指導部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
①非常時に備えた危機管理能力の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全管理マニュアルの改訂及び周知徹底 ・計画的な登下校指導の実施 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○年間予定していた地震・津波、火災（予告なし）職員向け、不審者、捜索訓練を実施しすることができた。 ▲学校安全管理マニュアルの見直し、検討を行っている。 ○毎学期始めの週には、佐世保駅、学校周辺に職員を配置し、当行の安全指導が指導できた。 ▲下校時、駅や交通機関の利用のマナーへの問題があった。
学校努力目標 (1) -③			
②安全点検の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検表の確認と報告の徹底 ・正確で迅速な報告を徹底 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○安全点検表の提出について期日までに提出ができるように促すことができた。 ○2学期から点検時の出た不良箇所や修繕状況について、随時職員に周知している。 ○事務室の方で素早く修理点検を実施していただいた。
学校努力目標 (1) -②			
③豊かな心の教育の実践を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎っ子のころを見つめる週間における地域・保護者との連携強化 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○長崎っ子の心を見つめる週間を1週間設定し、今年度は保護者1名のみではあったが授業参観を行うことができた。保護者からは、他学部の様子を参観したいという意見が多かった。 ○各学部での取組を一斉にスタートすることができた。
学校努力目標 (3) -③	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の日、「ありがとうの7日間」の教育活動の充実 		

④ 保健体育部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
<p>①生徒が安心・安全に活動ができる環境を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃日の設定とともに、日々のチェックや行事前等のチェック。 ・業者によるワックス掛けの実施。 ・児童生徒下校後の消毒作業。 ・環境整備のための掃除用具や教材等の道具の管理及び整理を、時間を確保して行う。 ・体育的行事や授業内における安心・安全に配慮した授業環境（内容等も含む）の整備（授業のUD化）を行う。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークサポートの活用により、効率的に行うことができた。今後も計画的に活用したい。 ○校舎を3か所程度に分け、年度ごとに持ち回りで業者によるワックス掛けを実施することとなった。 ○▲消毒作業を効率的に行うための工夫等を行いながら実施。一方、地域の感染状況を鑑みた消毒作業のレベルの調整について、管理職との連携が更に必要。 ○▲掃除用具及び教材等の道具の管理及び整理に関しては、以前からの重要課題で、今年度も積み残しが多い。一方で、施設利用のルールの文言化や不必要物の整理・処分等の実施ができた。 ○▲授業運営に際し、コロナ禍も踏まえた安全・安心かつ、効率的な運営を目指した。UD化については、自立活動部とも連携し、各学部の成果等を踏まえて今後進めたい。 ▲児童生徒の人数増とコロナ禍による分散授業を工夫して行ったが、物理的に場所の確保が必須。
<p>学校努力目標 (1) —①、②、④ (2) —②、⑧</p>			
<p>②健康教育の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に向けたブラッシング指導及び職員向けの研修会等を行い、歯や口の健康への意識を高める。 ・アレルギー対応について周知を図り、校内体制を整える。 ・毎日の健康観察及び検温を徹底し、早期に対応できるようにする。 ・衛生行動（手洗いやうがい及び手指消毒など）の習慣化に向け、日々の生活に般化させるための授業との連携を図る。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○▲ブラッシング指導はコロナ禍で、十分とは言えないものの、昨年度よりは取組めたと感じる。感染症予防の観点からも歯磨きの重要性はあり、状況に応じて取り組みたい。 ○▲緊急時のアレルギー対応について、マニュアル等を基に運用を行った。職員全体の危機管理の意識の向上を目指し、ヒヤリハットの情報共有及び何らかの形で職員の対応手順等の研修を行いたい。 ○▲毎朝の健康観察及び検温等により、体調不良時には早期対応できた。家庭での対応の周知等については課題。 ○▲衛生行動の更なる習慣化に向け家庭との連携や、寒冷時期における衛生面の確保の工夫等が必要。
<p>学校努力目標 (1) —④ (3) —④</p>			
<p>③食育に関する指導を充実し、児童生徒の健康増進と体力向上、更に健康意識の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全を徹底できるように、給食説明会を全職員に行うとともに、異物混入時のマニュアルの再確認及び対応訓練を実施する。 ・児童生徒への食育啓発のために、食育の日には食に関する掲示を行ったり、献立表で知らせたりする。また、食育検討会で、給食に関する課題などを十分検討する。 ・職員及び保護者への食育啓発に向け、学部会等を通じての伝達や、配付物等で日々の疑問に答えるような情報提供及び発信を行う。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月食育の日には、実物を触って楽しめるように提示したり朝の会で説明したりすることで児童生徒の興味関心を高めることにつながる部分があった。 ○食育検討会を実施し、各部、学年における反省を確かめ合った。 ○保護者向けの理解啓發文書の作成及び配付を行った。日頃の家庭の悩みに応えるような内容で、身近な情報として捉えていただけるような工夫も行った。
<p>学校努力目標 (1) —④ (2) —⑧ (3) —④</p>			

⑤ 進路指導部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
①進路決定について、生徒・保護者のニーズや実態に適した実習の計画や進路面談の実施によって「希望進路の実現100%」を目指していく。 ----- 学校努力目標 (2) —⑦	・担任、保護者、本人の3者で実習や進路について、面談を含めて十分に話し合う時間を設ける。 ・進路先決定に向け、外部機関の意見を参考にする。	3	○学校と家庭が協力して実習先や進路先の検討をすることができた。 ▲途中で進路変更することがあった。
②小中高一貫したキャリア教育の取組を検討する。 ----- 学校努力目標 (2) —⑧	・キャリア教育全体計画を進路指導部で確認する。 ・キャリアパスポートの実施を徹底する。	3	○おおむね、どの学部でもキャリアパスポートの導入、実施ができた。 ▲キャリア教育とはどんなものか、キャリアパスポートの進め方について、全体で周知徹底するまでに至らなかった。
③生徒・保護者が卒業後の進路を意識できるように、積極的な進路情報の提供を行う。 ----- 学校努力目標 (2) —⑦	・進路先についての情報を各担任へ伝達する。 ・面談前に、生徒や保護者の意向を確認し、事前に進路先の情報を集める。	3	○進路先の情報を提供することができた。 ▲小学部、中学部への情報提供は、高等部に比べて少なかったように思う。

⑥ 自立活動部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
①自立活動の指導力向上を目指すとともに、「自閉症指導スタンダード」の確実な実践を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度のアンケートを基に研修会の内容を企画、運営する。また、必要に応じて小グループでの学習会を企画する。 ・外部専門家活用事業の全体化を図り、指導に生かせるようにする。 ・研修会や学習会で「自閉症指導スタンダード」の内容について理解を深める。 	3	<p>○前年度のアンケートを基に、3回の自立活動研修会を行うことができた。また、7月に実施した力量形成チェックシートの結果を受け、研修会の内容を一部変更して行うことができた。</p> <p>▲自閉症指導スタンダードについては、年度当初研修を行ったが、事例等を共有できる学習会を増やす必要がある。</p>
学校努力目標 (2) —②			
②目標検討会、評価会等を円滑に運営し、実態把握から授業改善までのPDCAサイクルによる自立活動の授業実践を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会等で目標設定シートを活用し、実態把握から目標と指導内容設定、評価までの手続きについての理解を深める。 ・目標検討会、評価会を通して、PDCAサイクルによる自立活動の授業実践を働き掛ける。また、目標設定シートの作成を全校で行う。 	3	<p>○目標設定シートを活用した実態把握から目標・指導内容設定評価までの手続きを全校で共通理解できた。また、マニュアルを作成し、全校職員に配付した。</p> <p>○個別の指導計画提出時に目標設定シートを提出することで、複数の目で検討することができた。</p> <p>▲知的障害教育部門の目標検討会に、担任以外の教師も入って行うことを計画している。</p>
学校努力目標 (2) —③			
③保護者への自立活動の指導に関する理解啓発を進める。また、リハビリ見学など関係機関との連携の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・外部専門家活用に関わる研修事業の活用の充実を図る。 ・発達センターを始め、関係機関へのリハビリ見学や学校訪問について、日程等の連絡調整を行う。 	3	<p>○外部専門家活用事業に係る研修会では、各部のニーズに応じた内容で研修を深めることができ、HPでも研修したことを共有することができた。</p> <p>○リハビリ見学を始め、関係機関が学校訪問をする機会が増え、連携を更に深めることができた。</p> <p>▲自立活動だよりで各部の自立活動の指導の紹介を行ったが、更に自立活動の授業参観を保護者へ呼び掛け、保護者等の理解を促したい。</p>
学校努力目標 (3) —③			

⑦ 教育支援部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
①支援籍による居住地校交流を円滑に実施できるよう、交流マニュアルの策定を行うとともに、リモート交流の推進等、交流内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・県教委の「支援籍ガイドブック」をもとに、実施の流れや各種文書などをまとめたマニュアルを作成する。1月末に起案後、年度末までに完成版を作成する。 ・情報教育部と連携しながら、リモート交流の実施方法についてまとめ、間接交流の充実を図る。 	3	<p>○予定どおり作成し、1月末に起案を行ったので、最終修正を年度内に終わらせ、新年度から運用していく。</p> <p>○リモート手段として「Zoom」と「Google Meet」を主に使用しながら、特に肢体不自由部門における直接交流が難しい児童生徒はリモート交流を積極的に実施した。</p>
学校努力目標 (3) -②			
②教育支援会議の成果と課題を整理し、次年度の教育支援会議につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援会議の実施状況を報告してもらい、実施件数を把握する。 ・教育支援会議に関する課題を洗い出し、改善につなげる。 	3	<p>○実施状況や進め方などの意見を学期ごとに把握できた。</p> <p>▲教育支援会議で話し合われたことについて、会議出席者以外の職員への情報提供や共通理解が十分でなかった。会議録を回覧したり、必要に応じて学部会で報告したりするなどの検討が必要である。</p>
学校努力目標 (3) -①			
③児童生徒の放課後等デイサービスや相談支援事業所等の利用状況を整理し、連携の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・新転入生には療育機関等の利用調査票を配付し、利用状況を確認して施設利用一覧に追記する。 ・夏季休業中の放課後等デイサービス見学会の実施に向けて、計画と調整を行う。 	3	<p>○新型コロナウイルス感染症で実施できなかったが、夏季休業中の放課後等デイサービス見学会の計画を立て、窓口となる先生方にも、学部間で連携を取りながら調整をしてもらった。</p> <p>▲日程調整等の負担が大きい。30分程度の施設見学のみであり、必要がある場合は教育支援会議を実施することになっているので、負担軽減の観点からも来年度からは実施しない。</p>
学校努力目標 (3) -④			

⑧ 地域支援部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
<p>①特別支援教育のセンター的機能の発揮に努め、県北地域の特別支援教育の充実・発展を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談を活用しやすいように「教育相談案内」の内容を見直し・検討。 ・専門性向上のため、部内での学習会の計画・実施。 ・ホームページにて、指導・支援に関する情報を更新。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○「教育相談案内」に具体的な相談内容例を表記。佐世保市立小・中学校へ配付。 ○相談内容に応じて、必要な情報や資料を事前に収集。相談後は、2、3か月後に電話で様子聞き取りを行った。研修は5件対応。 ○部内の学習会を、4回実施。うち2回は地域（佐世保市小・中学校）にも案内を配付。外部からは1回目4名、2回目9名の参加。副校長、教頭の講義やグループ協議を交えて、知識を深める機会になり、外部の参加者からは好評だった。 ○ホームページを2回更新。
<p>学校努力目標（3）—①</p>			
<p>②各市町の教育委員会と連携を取り、特別支援教育コーディネーター連絡協議会の内容の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実務者委員が、より中心となった取組の立案。 ・市町教育委員会と連携できる部分や役割分担などを検討し、次年度以降の運営の在り方を整備する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○佐々町については、全体研修を受けて、実務者から各園（学校）の取組を報告の形式をとった。 ○佐世保市については、「連携支援シート」の運用について、整備を行った。 ▲市町教育委員会と連携した運営に向けて、部内で検討し、教育委員会と検討・確認予定。次年度、必要に応じて運営要綱の見直しを行う予定。
<p>学校努力目標（3）—①</p>			

⑨ 情報教育部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
①定期的に職員向けの研修会を行い、ICT 機器やアプリ等の使い方を周知し、授業で活用できる人材を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器等に関する研修会、勉強会を企画、実施する。 知、肢両部門の授業で活用できるアプリ等の紹介を行う。 	3	<p>○職員の必要性に応じて Teams、Forms を用いた教材作成、アクセシビリティ機能について研修会を実施することができた。授業での活用も以前より進んでいる。</p> <p>○定期的に授業で活用できるアプリの紹介や ICT 機器の設定方法等について情報発信することができた。</p> <p>▲校内の ICT 活用推進を更に進めていくとともに、保護者との連携を取りながら今後家庭学習での活用も進めていきたい。</p>
学校努力目標 (2) —④			
②情報関係の様式整理やルールづくり、機器の使い方などのマニュアル作成を行い、環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での活用を進めるためにも、タブレット PC の持ち帰りに関する書類の見直し、修正を行う。 情報セキュリティ管理要綱の大幅な変更に伴い、情報セキュリティ委員会で校内での方策を検討し、周知する。 	3	<p>○タブレット PC の持ち帰りに関する書類の見直し、修正を行うことができた。全職員に対してタブレット PC の持ち帰り手順に関する研修会を実施し、周知することができた。</p> <p>○情報セキュリティ委員会で新情報セキュリティ管理要綱変更に対する方策を検討し、全職員に研修会を実施して周知することができた。</p> <p>▲タブレット PC だけではなく、周辺機器等の使い方に関するマニュアルも充実させ活用を促す。</p>
学校努力目標 (2) —④			
③紙媒体を含めて、情報を適切に管理する方法を徹底し、情報モラルを意識できる人材を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> 私有パソコン利用申請や作業申請、端末持出申請、紙媒体持出申請に関して情報セキュリティ研修会で重要性を説明し、情報管理に努める。 パソコンや紙媒体の持出申請書などファイル保管場所を周知し、記入を徹底する。 	3	<p>○必要に応じた各種申請の徹底を促すことができた。今年度新しく導入された事務用端末持出に関しては、規定に従って、管理システムでの申請や持ち出す際のルールを徹底することができた。</p> <p>▲Teams 内の個人情報の管理について今後注意を促していく必要がある。</p>
学校経営目標⑨			

⑩ 文化部

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果 (○) と課題 (▲)
①文化的行事の企画、運営を行い、児童生徒が生き生きと自己表現できる環境を作る。	・高等部文化祭や芸術家による巡回公演事業を計画し、運営していく。	4	○芸術家による巡回公演事業では、中学部の生徒のみではあるが、箏に一人ずつ触れて音を鳴らしたり、演奏したりした。楽器を身近の雰囲気や音色を身近に感じることができる良い機会となった。高等部文化祭も普段の学習の成果を発揮することができた。
学校努力目標 (2) —⑧			
②児童生徒の作品など、学習活動の成果を総合的に生かし、発表する場を設ける。	・夏休み作品展を計画し、他学部の友達の作品を鑑賞し合う。 ・月ごとにあたご棟小中学部の掲示板の装飾の割り振りを行い、活用に努める。 ・作品展の募集を募る。	4	○夏休み作品展では、密にならずに鑑賞できるように期間を長く設けたり、学級ごとに見学時間を振り分けたりして実施できた。 ○先生方の協力もあり、様々な作品展に出展することができた。 ▲季節に合った装飾を掲示してほしいなどの声が上がっている。
学校努力目標 (2) —⑧			
③図書整備に努め、児童生徒が学びやすく、教師が授業を行いやすい環境を作る。	・蔵書点検などを行い、蔵書の整備に努める。 ・職員から購入希望図書を募り、購入する。 ・読書週間に催しを企画したり、図書館だよりを発行したりし、児童生徒に図書への興味をもたせる。 ・職員向けに図書に関するアンケートを取り、課題などを聴く。	4	○今後も催しなどを考えていき、学びやすい環境づくりに努めたい。 ○図書に関するアンケートの結果、来年度から希望図書があれば、先生方で入力してもらうようにする。 ▲図書室のルールやマナーの徹底、図書の整備などに課題があった。
学校努力目標 (2) —⑧			

2 アンケートの結果

(1) 教職員アンケート

回答者数 146/172 回答率 84.9% ※教職員数の分母は、R4.5.1 現在の数

評価基準 ◎ (4) : よく当てはまる ○ (3) : やや当てはまる △ (2) : あまり当てはまらない
× (1) : 全く当てはまらない / (ノーカウント) : 回答するのが難しい

【改善策を検討する視点】

- ・平均値が中央値である 2.5 ポイントを下回った項目。
- ・昨年度と比較して、平均値が 0.5 ポイント以上下回った項目。
- ・「達成度」が 75% を下回った項目。
- ・自由記述に意見が挙がった項目で、改善策の検討が必要又は望ましいと判断された項目。

NO.	具体的評価内容	R 3	R 4	達成度
学校経営等				
1	学校は、学校教育目標や校訓、学校の実態などを踏まえて学校経営目標や本年度努力目標を設定している。		3.4	95.7%
2	学校は、学校経営目標や本年度努力目標、部の実態などを踏まえて部の教育目標や経営目標、努力目標を設定し、部を経営している。		3.4	96.4%
3	学校は、学校経営目標や本年度努力目標、部の教育目標や経営目標、努力目標、学級の実態などを踏まえて学級経営目標を設定し、学級を経営している。		3.4	98.6%
4	学校は、目的に応じた委員会を組織するとともに、効果的・効率的に業務が遂行できるように校務分掌を組織している。		3.3	90.6%
5	分掌部は、学校経営目標や本年度努力目標、学校の実態などを踏まえて今年度の努力目標を設定し、分掌部の運営を行っている。	3.1	3.3	89.9%
6	学校は、業務改善アクションプランに基づいて働き方改革を推進している。		2.8	65.2%
7	学校は、文書や金銭等の管理や処理を適切に行っている。		3.5	96.5%
教育活動				
8	学校は、関係法令や学習指導要領に従い、児童生徒の障害の状態や特性、心身の発達の段階、学校や地域の実態等を十分に考慮して教育課程を編成 (Plan) するとともに、適切に実施 (Do)、評価 (Check)、改善 (Action) を行っている。		3.3	94.2%
9	学校は、前年度までの反省を生かして学校行事の時期や回数、内容などを設定している。	3.2	3.2	87.8%
10	学校は、知的障害教育部門と肢体不自由教育部門の連携を図りながら、知肢併設校として特色ある教育活動を行っている。		2.8	60.0%
11	学校は、小学部、中学部、高等部を通じて、一貫した指導に努めている。		2.9	73.1%
12	学校は、個別的教育支援計画を作成し、必要に応じて活用している。		3.3	90.5%
13	学校は、個別の指導計画を作成し、児童生徒の障害の状態や特性などに配慮しながら個に応じた指導を行っている。	3.3	3.4	96.4%
14	学校は、道徳教育全体計画を踏まえて、道徳の時間や教育活動全体を通じて、道徳に関する指導を適切に行っている。		3.0	83.5%
15	学校は、食育全体計画を踏まえて食育に関する指導を適切に行っている。		3.2	90.1%
16	学校は、児童生徒の実態を的確に把握し、自立活動の時間における指導や教育活動全体を通じて、自立活動の指導を適切に行っている。		3.3	94.9%
17	学校は、キャリア教育全体計画を踏まえて、必要に応じてキャリアパスポートを活用しながら指導を行っている。		2.9	76.5%
18	学校は、児童生徒一人一人の命と人権を尊重し、障害特性や発達段階に応じて「体罰」や「不適切な言動」によらない指導を行っている。		3.5	95.6%
19	学校は、ICT 機器を活用するなど、授業を分かりやすくするための工夫を行っている。		3.2	96.4%

20	学校は、児童生徒や保護者に進路に関する情報を提供するとともに、自己選択・自己決定を促しながら進路指導を行っている。	3.2	3.3	94.7%
21	学校は、進路実現に向けて職場体験学習や現場実習などの実習等を適切に行っている。		3.5	99.2%
22	学校は、校外学習などの体験的な学習を適切に実施している。	3.2	3.4	97.2%
23	学校は、共生社会の実現に向けて、学校間交流や支援籍による居住地校交流を適切に行っている。	2.7	3.2	88.5%
24	学校は、児童生徒の生活年齢等に応じて保健指導を適切に行っている。		3.3	95.6%
25	学校は、避難訓練などを通して安全や防災に関する指導を適切に行っている。		3.5	97.2%
26	学校は、危機管理マニュアルを整備するとともに、必要に応じて見直しを行っている。		3.4	95.6%
27	学校は、事故やヒヤリハットが発生した場合には情報を共有し、再発防止に努めている。		3.4	93.6%
教育環境				
28	学校は、教育活動に必要な施設・設備を整備している。	2.5	2.7	62.7%
29	学校は、施設・設備の安全点検を定期的を実施し、問題点があれば早急に対応している。		3.3	88.1%
30	学校は、校舎内外の美化に努めている。	3.2	3.2	88.4%
31	学校は、校内の掲示を工夫して行っている。	3.4	3.3	93.8%
32	学校は、災害への備えとして計画的に備蓄品を準備している。		3.2	91.9%
専門性の向上				
33	学校は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善を行っている。		3.2	93.4%
34	学校は、研究授業や授業研究などを通して授業力の向上に努めている。		3.4	96.4%
35	学校は、「自閉症指導スタンダード」の共通理解を図り、確実に実践している。		3.1	84.5%
36	学校は、教職員として必要な研修（現職教育）を計画的に実施している。		3.3	92.6%
37	学校は、教職員に対して、教育センターの研修講座や各種研修会への参加を促し、専門性の向上に努めている。	3.1	3.3	91.2%
開かれた学校				
38	学校は、授業参観や学級懇談を計画的に実施している。		3.5	98.6%
39	学校は、本校への就学や進学を希望している幼児児童生徒やその保護者、関係者、地域の方などに対して、学校公開を適切に実施している。		3.5	98.6%
40	学校は、教育相談や特別支援教育コーディネーター連絡協議会の運営などを通して、地域の特別支援教育に関するセンターとしての役割を果たしている。	3.2	3.5	96.9%
41	学校は、ホームページや学校だより、学級だよりなどを通して、学校の様子を保護者や地域に発信している。	3.6	3.4	95.7%
42	学校は、連絡帳や電話、メールメイトなどで、必要な情報を素早く保護者に伝えている。		3.6	98.6%
43	教職員は、保護者や地域の学校、学校関係者、関係機関などからの相談に対して、誠意をもって丁寧に対応している。	3.2	3.6	99.3%
44	教職員は、保護者や学校関係者に積極的に挨拶をし、丁寧な対応を心掛けている。		3.6	97.2%
総合評価				
45	佐世保特別支援学校は、働きやすくやりがいのある学校である。		3.0	79.4%

(2) 児童生徒アンケート

回答者数 194/274

回答率 70.8%

※児童生徒数の分母は、R4.5.1 現在位の数

評価基準 ◎ (4) : よく当てはまる ○ (3) : やや当てはまる △ (2) : あまり当てはまらない
× (1) : 当てはまらない / (ノーカウント) : 答えるのが難しい

【改善策を検討する視点】

- ・平均値が中央値である 2.5 ポイントを下回った項目。
- ・昨年度と比較して、平均値が 0.5 ポイント以上下回った項目。
- ・「達成度」が 75% を下回った項目。
- ・自由記述に意見が挙がった項目で、改善策の検討が必要又は望ましいと判断された項目。

NO.	具体的評価内容	R 3	R 4	達成度
1	学級は雰囲気が良い。	3.5	3.6	97.0%
2	学校行事は楽しい。	3.5	3.6	95.6%
3	先生は、タブレットパソコンや大型テレビなどを使って、分かりやすく授業をしている。	3.5	3.5	95.5%
4	先生は、自分の良いところや頑張ったことを褒めてくれる。	3.5	3.5	99.1%
5	先生は、宿題や手伝いなどの課題を出してくれる。	3.4	3.4	90.5%
6	先生は、進路についての情報を教えてくれる。	3.3	3.4	95.5%
7	先生は、私たちの意見をよく聞いてくれる。	3.5	3.4	93.7%
8	先生は、私たちの相談によくのってくれる。	3.5	3.4	93.1%
9	学校は、きれいに掃除されている。	3.5	3.5	94.7%
10	授業で使う教室などには、必要な道具がそろっている。	3.5	3.5	95.8%
11	学校は、安全である。	3.5	3.5	96.9%
12	学校には、作品などが飾られている。	3.4	3.5	97.3%
13	部活動の活動は楽しい。※部活動等をしている人のみ	3.4	3.6	94.0%

(3) 保護者アンケート

回答者数 147/274 回答率 53.6% ※保護者数の分母は、R4.5.1 現在の数

評価基準 ◎ (4) : よく当てはまる ○ (3) : やや当てはまる △ (2) : あまり当てはまらない
 × (1) : 全く当てはまらない / (ノーカウント) : 回答するのが難しい

【改善策を検討する視点】

- ・ 平均値が中央値である 2.5 ポイントを下回った項目。
- ・ 昨年度と比較して、平均値が 0.5 ポイント以上下回った項目。
- ・ 「達成度」が 75% を下回った項目。
- ・ 自由記述に意見が挙がった項目で、改善策の検討が必要又は望ましいと判断された項目。

NO.	具体的評価内容	R 3	R 4	達成度
教育活動				
1	学校の経営方針は適切である。	3.4	3.5	97.8%
2	学校は、各部門や各部の特色を生かした教育活動を行っている。	3.4	3.6	100.0%
3	学校は、小学部、中学部、高等部を通じて、一貫した指導に努めている。	/	3.5	95.9%
4	学校は、児童生徒一人一人の命と人権を尊重し、「体罰」や「不適切な言動」によらない指導を行っている。	/	3.6	94.4%
5	学校は、児童生徒の特性などに配慮しながら個に応じた指導を行っている。	3.4	3.6	97.3%
6	学校は、学習内容や教材を工夫しながら指導を行っている。	3.4	3.6	96.5%
7	学校は、ICT 機器を活用するなど、授業を分かりやすくするための工夫を行っている。	/	3.4	94.1%
8	学校行事の時期や回数、内容などは適切である。	3.4	3.4	92.3%
9	学校は、児童生徒の生活年齢に応じて保健指導を適切に行っている。	/	3.4	92.7%
10	学校は、避難訓練などを通して安全・防災に関する指導を適切に行っている。	3.4	3.6	97.9%
11	学校は、進路に関する情報を提供するとともに、自己選択・自己決定を促しながら進路指導を行っている。	3.4	3.5	96.2%
12	学校は、卒業後の生活が豊かになるように、体験学習などを適切に実施している。	/	3.5	96.3%
13	学校は、共生社会の実現に向けて、学校間交流や支援籍による居住地校交流を適切に実施している。	3.1	3.4	89.4%
14	学校は、子供の成長や変容を的確に捉えて評価している。	3.3	3.5	94.4%
15	学校は、子供の学習や生活の様子、健康状態などの情報を保護者に伝えている。	3.5~ 3.6	3.7	100.0%
教育環境				
16	学校は、教育活動に必要な施設・設備を整備している。	3.2	3.3	90.8%
17	学校は、校舎内外の美化に努めている。	3.5	3.5	97.2%
18	学校は、校内の掲示を工夫して行っている。	/	3.6	97.2%
19	学校は、災害への備えとして計画的に備蓄品を準備している。	/	3.6	99.1%
開かれた学校				
20	学校は、授業参観や学級懇談を計画的に実施している。	3.3	3.6	96.6%
21	学校は、ホームページや学校だより、学級だよりなどを通して、学校の様子を保護者や地域に発信している。	3.2	3.5	96.5%
22	学校は、連絡帳や電話、メールメイトなどで、必要な情報を素早く保護者に伝えている。	/	3.7	96.6%
23	教職員は、保護者や学校関係者に積極的に挨拶をし、丁寧な対応を心掛けている。	/	3.6	96.6%
総合評価				
24	佐世保特別支援学校は、子供にとって望ましい学校である。	3.6	3.7	97.2%

3 改善策を検討する項目等の選定について

(1) 自己評価の結果から

【改善策を検討する視点】

- ・自己評価の数値が「2」以下の項目。

① 各部における自己評価の結果から

- ・自己評価の数値が「2」以下だったのは、知的障害教育部門小学部の努力目標①のみで、それ以外は3～4の評価だった。
- ・あたご中学部とあたご高等部の自己評価において、ホームページの周知についての課題が挙げられた。

② 各分掌部における自己評価の結果から

- ・自己評価の数値が「2」以下の項目はなく、全て3～4の評価だった。

(2) 教職員、保護者、児童生徒アンケートの結果から

【改善策を検討する視点】

- ・平均値が中央値である2.5ポイントを下回った項目。
- ・昨年度と比較して、平均値が0.5ポイント以上下回った項目。
- ・「達成度」が75%を下回った項目。
- ・自由記述に意見が挙げられた項目で、改善策の検討が必要又は望ましいと判断された項目。

① 教職員アンケートの結果から

- ・回答者数は146/172で、回答率は84.9%だった。休業中の教職員も母数に含めているので実際の回答率はもう少し高くなるが、回答率100%には達しなかった。

※令和3年度は回答者数155/167、回答率92.8%

- ・平均値が2.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・平均値が昨年度より0.5ポイント以上下回った項目はなかった。
- ・達成度が75%を下回ったのは、**NO.6**の働き方改革、**NO.10**の部門間の連携、**NO.11**の一貫した教育、**NO.28**の施設・設備の充実の4項目だった。
- ・自由記述では、人員不足や業務過多による多忙感、教室不足に関する意見が多数挙げられたが、ほとんどが上記の4項目に関する意見だった。それ以外の意見で、全校的に改善策の検討が必要又は望ましいと判断した意見はなかった。

★人員不足や業務過多による多忙感に関する意見。(多数あり、**NO.6**と関連)

★教室不足に関する意見。(多数あり、**NO.28**と関連)

② 児童生徒アンケートの結果から

- ・回答者数は194/274で、回答率は70.8%だった。回答するのが難しい児童生徒もいるため、このような数字となった。
- ・試行的にweb回答もできるようにした。今年度は、6名(肢体不自由教育部門中学部生徒4名、知的障害教育部門高等部生徒2名)の回答があった。
- ・平均値が2.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・平均値が昨年度より0.5ポイント下回った項目はなかった。
- ・達成度が75%を下回った項目はなかった。
- ・自由記述の内容により、改善策の検討が必要又は望ましいと判断したのは、次の1点。

★高等部生徒心得や校則に関する意見。

③ 保護者アンケートの結果から

- ・回答者数は147/274で、回答率は53.6%だった。昨年度と同様、web上での回答と希望者には用紙を配付して回答してもらったが、回答率は昨年度よりも低かった。
※令和3年度は回答者数176/274、回答率64.2%
- ・平均値が2.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・平均値が昨年度より0.5ポイント下回った項目はなかった。
- ・達成度が75%を下回った項目はなかった。
- ・自由記述の内容により、改善策の検討が必要又は望ましいと判断したのは、次の1点。

★防犯対策に関する意見。

4 学校関係者評価の結果

(1) 学校関係者による評価

- ・学校運営は、適切に実施できている。
- ・学校評価は、自己評価やアンケートの実施、結果の処理、改善策の検討など、適切に処理できている。

(2) 学校関係者からの意見及び助言内容

- ・学校評価の説明から、先生方がきめ細やかに指導・支援し、評価していることがよく分かった。健康に留意しながら業務に当たってほしい。就労関係の情報として、就労継続支援事業B型からの一般就労が増えてきている。今後、長崎県でもB型事業所が重要になってくると思われるので、情報を得ながら進路指導に生かしてほしい。
- ・細かく学校評価をすることで、課題が明らかになったと思う。ただし、業務改善をしていくには教員の仕事を減らす必要があると思う。コロナ禍でも修学旅行や校外学習などを実施できたのは良かった。教員不足の中、大変なことがたくさんあったと思うが、児童生徒一人一人の実態に合わせた支援をしていただいたことに感謝する。
- ・今年度、学校評価を細やかにすることで、課題が明確になって良かった。ICT機器の活用は高まっているが、教職員向けのwebアンケートの回答率が低かったのは残念である。学校の一員であるという自覚を高めていくことが大切である。教育課程の改善を図ることや、児童生徒の限界を作らず可能性を信じて支援していく姿は素晴らしい。
- ・学校行事を見せていただいた。先生方が児童生徒の実態に合わせた指導を行っていたことや保護者に寄り添った支援をしていることは素晴らしいと感じた。和太鼓部の演奏をってもらうなど、地域の方々に学校のことをもっと知ってもらいたい。学校評議員を務めることで、知らなかった学校のことに関心を持つことができた。
- ・親が子供の限界を決めていたと反省した。先生方はとても細やかな指導・支援をしてくださっており、感謝している。先生方は、通勤時間を含めると、かなり長い時間勤務していると思う。指導・支援の内容は濃くしながらも勤務時間を短くするように頑張してほしい。

5 具体的な改善策について

(1) 児童生徒が安心・安全に学べる学習環境の整備について（あたご小学部の自己評価から）

- ・学級の実態に応じた教職員や介助員などの配置について十分検討する。
- ・担任と担任以外の教職員間で、児童に関する更なる情報共有を行う。
- ・危険な箇所に関する情報共有と、出入り口などの戸締りを徹底する。

(2) ホームページの周知について（あたご中学部、あたご高等部の自己評価から）

- ・年度初めに行われる学部懇談やPTA総会など、保護者が集まる機会に、本校のホームページに児童生徒の学習の様子を掲載していることを説明する。
- ・併せて、掲載の頻度が部によって偏らないようにするとともに担当者の負担を軽減することを目的として、情報教育部を中心に、ホームページに掲載する際の様式や掲載方法、頻度、担当者などについて、令和5年度中に検討する。

(3) 働き方改革について（教職員アンケート NO.6 の結果及び自由記述から）

アンケートの質問は、「学校は、業務改善アクションプランに基づいて働き方改革を推進している」となっており、達成度は 65.2%と低かった。働き方改革に向けた業務改善はこれまでも行ってきたので、今回の結果は、「推進していない」と評価したのではなく、取組が改善に結びついたと実感できるまでに至っていないという結果であったのではないかと推察される。

- ・昨年度作成した業務改善アクションプランに基づいて、業務削減に向けた取組を継続する。
- ・安全衛生委員会を中心に、新たなアイデアの募集と実践を行う。
- ・学校の開錠時刻と施錠時刻を見直し、教職員が学校に滞在している時間を短縮することで、超過勤務の削減を図る。

(4) 部門間の連携、一貫した教育について（教職員アンケート NO.10、NO.11 の結果から）

- ・新型コロナウイルス感染症に対する県教育委員会の対策レベルを踏まえながら、本校の対応を見直す。
- ・教育課程の見直しを継続し、知的障害教育部門と肢体不自由教育部門の児童生徒が共に学ぶ機会を設定する。
- ・小学部、中学部、高等部の学びの連続性を意識した教育課程となるように、教育課程の見直しを継続する。

(5) 施設・設備の充実について（教職員アンケート NO.28 の結果及び自由記述から）

- ・増築や改築、移転などは県の予算が関係するので、早急に対応することは難しい。県教育委員会には、学校の実情を説明しながら継続して要望をしていく。
- ・改築を含めて現存の施設を有効活用できないか検討しながら、最低限必要な教室を確保するよう努める。

(6) 高等部生徒心得や校則について（児童生徒アンケートの自由記述から）

- ・高等部生徒会と生活生徒指導部が連携しながら生徒の意見を集約し、必要に応じて見直しを行う。

(7) 防犯対策について（保護者アンケートの自由記述から）

- ・児童生徒の登下校の時間帯以外は門扉を閉め、チェーンロックを掛けることを徹底する。
- ・肢体不自由教育部門棟の玄関は、児童生徒の登下校の時間帯以外は手動の扉を施錠し、出入り口を自動ドアのみに制限する。自動ドアには、センサー式のドアメロディを設置し、通行者を把握できるようにする。

6 総括

- ・教職員アンケートは、質問数を昨年度の 27 項目から 45 項目に増やすとともに、質問の内容を大幅に見直した。その結果、昨年度はアンケートの結果から 2 項目しか課題が浮かび上がらなかったが、今年度は 4 項目が課題として浮かび上がってきたので、より細かく評価や分析ができるようになったと考える。
- ・教職員アンケートは基本的に web 回答とした。回答期間の中間時点で各部の回答状況を部主事に伝え、部主事から再度回答を促してもらったが、回答率は昨年度よりも悪い結果となった。来年度は、回答が済んだら名簿にチェックを入れてもらうなどして、回答率の改善に努めたい。
- ・児童生徒アンケートは基本的にアンケート用紙を配付して回答してもらうこととし、回答可能な児童生徒に対しては、試行的に web 回答もできるようにした。今年度は、6 名（肢体不自由教育部門中学部生徒 4 名、知的障害教育部門高等部生徒 2 名）の回答があった。web 回答と用紙によるアンケートを並行して実施するのは集計作業が煩雑になるが、今後の社会の状況を考慮すると、web 回答は主流になると思われるので、来年度も並行して実施することとする。
- ・保護者アンケートは基本的に web 回答とし、web 回答が難しい保護者には用紙を配付したが、回答率は昨年度より 10%程度低下した。来年度は、メールメイトなどで回答の呼び掛けをし、回答率の改善に努めたい。
- ・今回、評価が高かった項目については、評価結果に甘んじることなく、今後も取組を継続するよう努める。